



▲介助の方法を学ぶようす



▲スロープでの車いす体験

草野小学校の3年・5年・6年生が、車いす体験授業を行いました。

これは、車いす利用者の不便さや不安を感じるとともに、介助の方法を学ぶことで、思いやりの心を育てようと、村社会福祉協議会と村地域包括支援センターの職員が協力して行ったものです。

はじめて車いすを体験する児童も多く、マットや演台で、段差や悪路に見立てたコースで、それぞれ車いすに乗る役

2/13

草野小学校で
車いす体験

みんなで支え合おうね

と介助する役を交代しながら体験しました。

「乗ってみると思ったより怖かった」と話す児童に、「動きを変えるときなど声をかけることが大切」と講師がアドバイス。その後、介助する児童は「車いすの向きを変えるよ」と声をかけながら、ていねいに車いすの操作をしていました。

体験後、児童らは、「これから車いすを利用する人を見かけたら、声をかけたり、手助けをしたい」と話し、車いす体験を通して、思いやりの心を育てていました。



▲ていねいに介助する子どもたち

子育て相談室 — お気軽にご相談ください —

小学校の英語教室 その2

数年前から、文部科学省は小学校の英語教育を適切に進めるために、全国の小学校から拠点校を選んで英語教育の試みをしています。

ある拠点校でのアンケートによれば、「英語の勉強は好きか」の質問に対し、6年生は「そう思う」がやや半数を超えましたが、5年生は「そう思わない」が半数以上を占めていたそうです。その理由に「好きではない」や「つまらない」の他に「英語を話すのは難しいからいやになる」を挙げています。

このことは、指導者が真剣に考慮しなければならぬことで、英語の学習は決して簡単なことではなく、よほどしっかりした計画のもとに十分な配慮をして活動させなければならぬことを意味しています。何よりも英語嫌いにならないこと、英語に対する子どもの関心と意欲を高めること、そして英語でのコミュニケーションの楽しさを感じさせることが授業の大切な要素になってきます。

飯館村の小学校において、子どもたちが英語を楽しく学んで、ますます勉強が好きになるように祈りたいと思います。

飯館中学校スクールカウンセラー

海野和夫

○「教育相談」は、飯館中学校（☎42-0008）へ電話でお申込みください。